

聖書:ルカの福音書18章18~27節

説教:神にはできるのです

はじめに

本屋さんに行くと、どうしたらお金を増やすことができるか、どうしたら幸せになれるか、どうしたら願いがかなうか、いわゆる「ハウツー本」というのがあって多くの方が読んでいます。

今日の箇所に登場する一人の指導者は、「どうしたら永遠のいのちを受け継ぐことができるのか」とイエスに質問しています。言葉を変えれば、「永遠のいのちを受け継ぐためのハウツーが知りたい」ということです。この指導者に限らず、だれでも知りたいとテーマかも知れません。いったいどうしたらそれができるのか。そのことをともに考えてまいります。

1 「なにをしたら」

1) 戒めは守ってきた

この一人の指導者はイエスのところへ来て、このように尋ねます。18節。「良い先生。何をしたら、私は永遠のいのちを受け継ぐことができるでしょうか。」

これに対してイエスはこのように言います。20節。「戒めはあなたも知っているはずです。『姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。偽りの証言をしてはならない。あなたの父と母を敬え。』」

イエスの語り方は実に巧妙です。「これこれの戒めを守りなさい」とは言っていません。その代わりに、「あなたは知っていますね」と確認をする。ですから答えは「はい、知っています」「いいえ、知りません」でいいはず。ところがこの人は、こう答える。21節。「私は少年のころから、それらすべてを守ってきました。」

「はい、知っています」で終わっていいのに、どうしてべらべらとそこまで言うのか。人の心理というのはおもしろい。「なにかをしなければ絶対に救われぬ。」そういうふう思い込んでいて、なにかをするとかしないとか、そういう生き方が自分を支えてきた、ということなのでしょう。

でもおかしいですね。そんなに自分のしてきたことに自信をもっている人が、「どうしたら永遠のいのちを受け継ぐことができるのか」と尋ねてくるのか。どうもこの人は、きっかけはわかりませんが自分が信じてきたことに自信がなくなっただけです。戒めを守ることは生きがいそのもの

だったのに、それが揺らいでくると、今日から自分は どうやって生きていけばいいのか。そんな悩みにぶち当たってしまう。それでこの人は社会的に高い地位にいたけれども、恥も外聞も捨ててイエスの所を尋ねてきました。

2) 非常に悲しむ

そんな悩みに苦しんでいる人に、イエスはこう言います。22, 23節。「『まだ一つ、あなたに欠けていることがあります。あなたが持っている物をすべて売り払い、貧しい人たちに分けてやりなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つことになります。そのうえで、わたしに従って来なさい。』彼はこれを聞いて、非常に悲しんだ。大変な金持ちだったからである。」

「何をすれば救われるのか」と質問した結果、イエスからいただいた答えは、「持っているものの一部を売り払いなさい」ではなくて、「持っているもののすべてを売り払いなさい」でした。全財産を売り払わなければ、あなたは救われぬ。そんなふうに言われて、この人は非常に悲しんだ、とあります。

皆さんどう思いますか。「折角の救われるチャンス逃してしまった愚かな人」と非難しますか。とても私にはできません。こんなことを言われたら、私だって悲しみます。「救われたいと思うなら、全財産を売り払え。」もしそうだというのなら、教会に来る人たちはみな一文無しで、今日の食べるパンにも困る。そんな話しになるのか？もちろんそんなはずはありません。

3) 富を持つ者が神の国に入ることは難しい

そんなはずはないのに、イエスは追い打ちをかけるようにこのように言います。24, 25節。「イエスは彼が非常に悲しんだのを見て、こう言われた。「富を持つ者が神の国に入るのは、なんと難しいことでしょう。金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうが易しいのです。」

ラクダと針の話は、絶対にできないことのとえですが、そこまで言わなくても思ってしまう。26節で「それでは、だれが救われることができるでしょう」と嘆いているのも当然でしょう。

2 イエス・キリスト

1) なぜ厳しいことを語るのか

皆さん疑問に思っているはずですよ。イエスはいついどんなつもりでこんな厳しいことを言ったのか。イエスはこの人を救いたかったのか。それとも救うつもりはなかったのか。

このことを考えるヒントは、イエスのことばにあります。21節をもう一度読みます。「『まだ一つ、あなたに欠けていることがあります。あなたが持っている物をすべて売り払い、貧しい人たちに分けてやりなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つことになります。そのうえで、わたしに従って来なさい。』」

その結果、この指導者は悲しみながら帰って行きました。私たちはここでつまづきます。「救われたいと願ってイエスのところへやって来たのだから、温かく迎えるべきではないのか。それなのに厳しいことを語って、追い返してしまう。この人が金持ちだったので、最初から救うつもりはなかったのか。」

2) 罪人を救うために

23節に「この人は大変な金持ちだった」とあるので、私たちの目はどうしてもそこへ行ってしまう、大切なことを見落としてしまいがちです。まず基本から考えましょう。イエスはこの人を救いたかったのか、それとも救いたくなかったのか。いいでしょうか。イエスは罪人を救うために十字架でいのちをお捨てになりました。一人でも多くの人々を救うためです。だったらこの人を救いたいと願ったはずではないですか。救うためにこの人に最もふさわしいことを語ったと見るべきでしょう。

それはよいとしても、まだ疑問は解決しません。救われるためには、すべての財産を売り払わなければならないと言われていました。でもそれはとても難しくできそうにない。だったら、私は救われる資格はないということになる。頭を抱えながら教会から帰ることになります。

3) 正しい行き先のバスに乗る

でもこれは何かがおかしい。さきほどからおかしいと繰り返していますが、どうしてこんなことになるのか。難しくありません。スタートラインが間違っているからです。

私が中学生の時の話しですが、学校にはバスで通学しておりました。あるとき、学校が終わって家に帰ろうとバスに乗った。そうしたら自分が間

違ったバスに乗ってしまったことに気がついてあわてて車掌に謝って次の停留所で降りてもらったことがありました。バスの行き先表示を確認したつもりなのですが、一字違いでそれも似たような字だったので読み間違ったのが原因でした。間違ったバスに乗ったら、間違ったところにしか行かない。行きたいところに行くには、正しいバスに乗らなければならない。当たり前のことですが、この箇所もそれに似ています。

そもそも、この話の最初の行き先はどこだったのか。この指導者が「何をしたら救われるか」という質問をしています。「どうしたら」というのがこのバスの行き先。イエスはそのバスに乗りながら話しを進めていきます。そうしたら、難しくてもできないという行き先に来てしまった。行き先が間違っているバスに乗ったから。実はイエスが教えたかったことはこのことでした。あなたはそもそもまったくのずれのバスに乗ってしまい、スタートラインから間違っていたのだ。

3 神にはできるのです

1) 模範となられる

では正しい行き先のバスとは何か。正しいスタートラインは何か。イエスは言われました。27節。「人にはできないことが、神にはできるのです。」私たちがなにかをしようとしても絶対にできない。の代わりに、神がしてくださる。正しいバスというのは、私たちにはできないことを、神はしてくださる。そんなバスらしい。でもそれだけではどうもピンとこない。いったいどのようにしてくださるのでしょうか。

このこともきちんと語っています。「あなたも持っている物をすべて売り払い、貧しい人たちに分けてやりなさい。」

世の中にいろいろな人がいます。口先ばかりで偉そうなことは言うけれど、自分ではちっともしない人。こういう人にはだれもついていけない。でもその反対に、自分で言ったことは率先して部下に模範を示す人。こういう上司は信頼される。イエスはどちらでしょう。もちろんこの方は私たちの模範となられた方ですから、こうしなさいと自分で語ったなら、自ら進んで模範を示したはずですよ。では具体的にはどうしたか。

2) 富んでいる

イエスは自分が持っていた財産を売り払って模範を示したのか。でもイエスはそんなにお金を持っていたとは思われません。献金はあったようです

が、それは全部弟子たちが管理していました。ご自分の財産がないわけですから売り払うこともできません。いや、イエスは貧しくなられたと言われているので、最初から売り払っていたのだと考えるべきでしょうか。

私たちは財産とか富と聞くと、どうしてもお金のことを考えがちです。でもイエスが言われる富とはなんでしょう。イエスはもう一つのことを言っているのではないか。イエスは神の子です。それなのに神の子であるという身分を捨て、いのちをお捨てになりました。全財産を売り払うどころではない。それ以上の犠牲を払い、罪人という貧しい者のために分け与えてくださった。そうすると22節ですが、実は十字架のことを指していたのではないかと気がつきます。

3) 貧しくなる

ではこの指導者の場合はどうなるのでしょうか。

「私は少年の時から戒めをしっかり守ってきました。」霊的な言い方をするなら、この人は富んでいると自分で思っていた。でも、結局どうなったか。「あなたの持っている物をすべて売り払いなさい」と聞いて非常に悲しんだ。考えてみると、この人は本当に正直な人です。これは想像ですが、涙を流しながら、「私はできない」と嘆いたのではないかと思います。

これはどういうことか。肉の目で見るとこの人は大変な金持ちだったかもしれない。しかし霊の目で見ると、この人は、正直にできませんと言って悲しみ、神の前で貧しくなっていたのです。

4) だれが義とされたのか

今ずっと見てきました。これらのことから最後に考えます。この人は救われたのかどうか。前回、パリサイ人の祈りと取税人の祈りを取り上げました。私はこれをしていきますと自慢していたパリサイ人ではなく、自分は何もできない罪人なのだと悲しんでいた取税人が義とされまたという話しです。今日の箇所はそれとまったく同じではないですか。この指導者は、イエスの前に立って「私にはできない」と言って悲しんだとき、実はあの取税人が義とされたように、この指導者も義とされていった。救われていた。人にはできないけれど、神にはできる。まるで手品のような話しに聞こえましたが、実はこのことだった。

私たちもおなじです。私たちにはできないことを、主が十字架でして下さいます。この一週間もこの方と共に歩んでまいります。